

このゴールデンウィークには、ご家族で旅行をされた方も多いと思います。普段は乗らないような変わった電車で、子供たちは興奮していたのではないのでしょうか。そんな楽しかった電車の絵を子供に描いてもらおうと、多くの場合、四角い箱の上にひし形のパンタグラフが描かれていると思います。このパンタグラフこそが電気鉄道のシンボルマークといえますが、ひし形の上に架線が描かれていたり、まして架線の先に変電所が描かれることは皆無であり、これら電力設備の研究開発を担当する者としては少し寂しいのが本音です。

さて、今月号は「電気鉄道を支える技術」と題し、鉄道電力

設備に関する研究開発成果を紹介しました。電力設備は絵にはなかなか描いてもらえませんが、電気鉄道の安全・安定輸送を24時間、陰で支えています。電気は空気と同じで、有って当たり前、なくなって初めてその存在に気づくものです。本特集の技術により、電力のさらなる安定供給が達成されるならば、絵に描かれないことこそが私たちの本望なのかもしれません。

来月号の特集は「低コストな鉄道をめざして」です。鉄道輸送の品質は落とさずに、低コスト化を達成するという、相反する要求に応える研究開発成果を紹介します。どうぞご期待ください。(K.N.)